

青少年教育に関する基盤的及び課題別の調査研究を行い、その成果を広く提供・活用することにより青少年教育の振興を図っています。

## 調査及び研究

青少年及び青少年教育に関する情報を収集・分析し、統計資料の作成や青少年教育関係文献のデータベースの構築を行うなど、基盤的及び課題別の調査研究を計画的かつ継続的に実施しています。

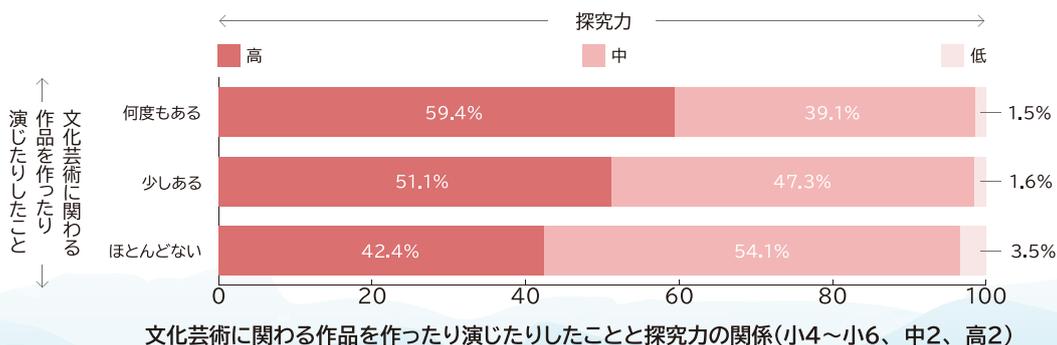
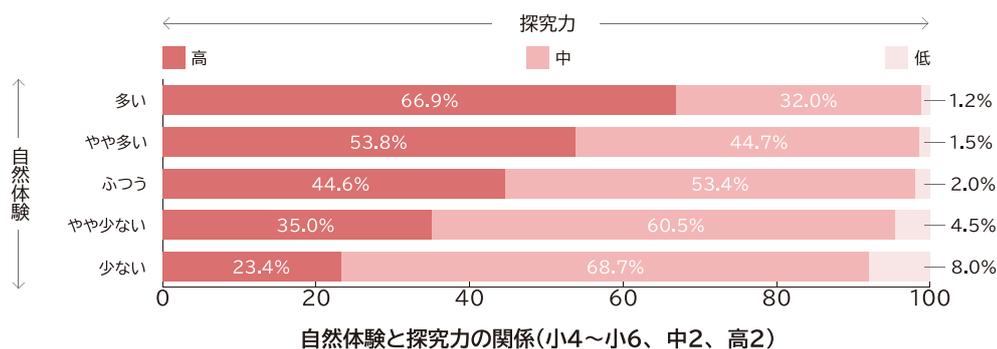
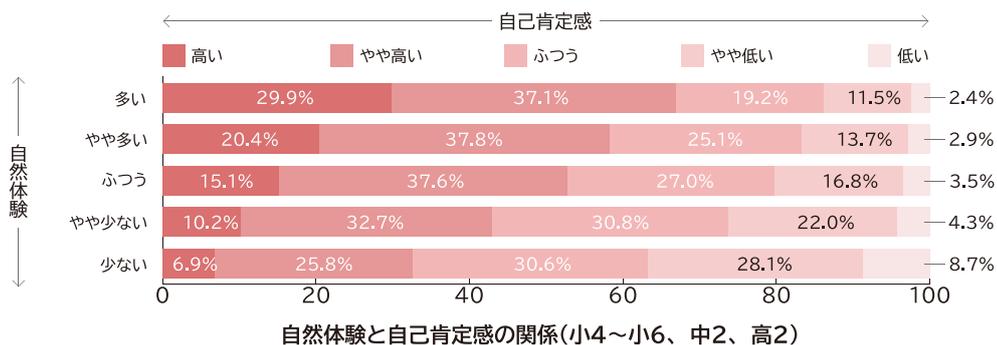
### 1 青少年の体験活動等に関する意識調査

青少年の自然体験や生活体験等の実施状況や日々の生活習慣の実態、自立に関する意識等について、全国規模の調査を平成18年度から実施しています。

● 「青少年の体験活動等に関する意識調査(令和元年度調査)」報告書(令和3年3月発行)より

主な  
調査結果

自然体験や生活体験、文化芸術体験が豊富な子供、お手伝いを多く行っている子供は、自己肯定感が高く、自立的行動習慣や探究力が身につけている傾向があることがわかりました。



## 2 子どもの読書活動の効果に関する調査研究

成人(20代~60代)の読書活動の実態や現在の意識・能力、さらには子供(小学校から高校)の読書活動の実態や現在の意識・能力を把握し、子供の読書活動の推進に資する資料を収集しました。

●「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究」報告書(令和3年3月発行)より

### 主な調査結果1

子供に限らず全ての年代の人の読書離れが進んでいます。特に、1ヶ月に読む本の量が0冊と回答した人の割合は、年代に関係なく大きく増加していて、平成30年の調査では**全体の約半数が全く本(紙媒体)を読んでいない**と答えていました。

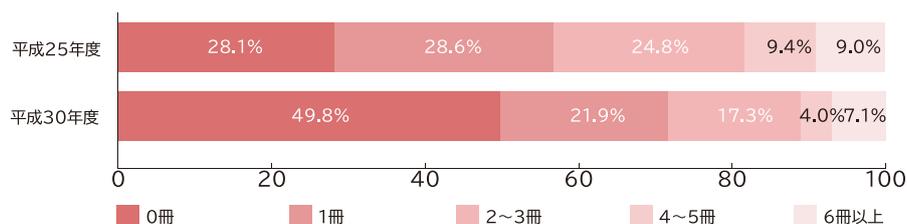


図1. 1ヶ月に読む本(紙媒体)の量の経年比較

### 主な調査結果2

紙媒体の読書が減る一方で、**電子媒体の読書は増えています。**

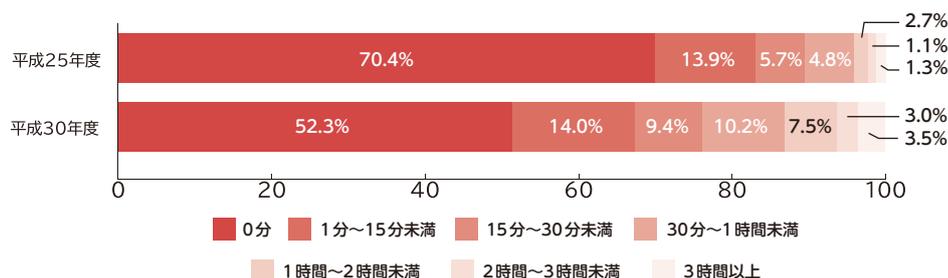


図2. 携帯電話、スマートフォン、タブレットを利用した1日あたりの読書時間の経年比較

### 主な調査結果3

読書のツールに関係なく、読書している人はしていない人よりも意識・能力(非認知能力)が高い傾向がありますが、本(紙媒体)で読書している人の意識・能力(非認知能力)は最も高い傾向があります。

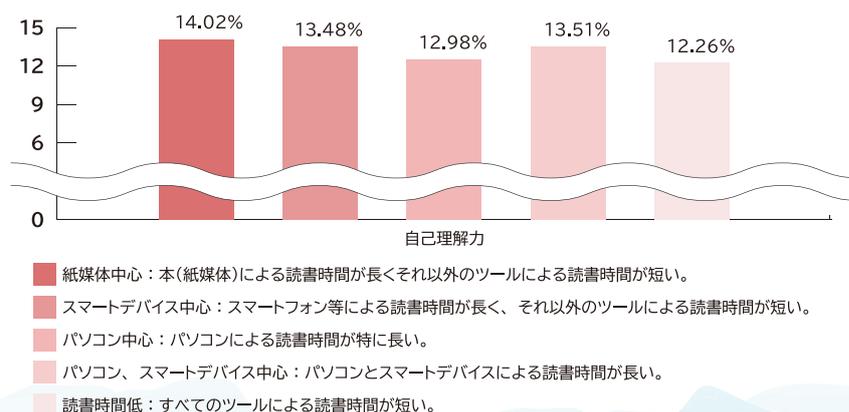


図3. 使用ツールにおける意識・非認知能力得点の違い

## ●青少年教育研究センター紀要等の発行

当機構では、青少年教育の振興に寄与するため、調査研究の成果を紀要や報告書に取りまとめ発行しています。紀要は、青少年教育関係者に研究成果の発表の機会としていただくため、実践的な調査研究等に関する投稿原稿も掲載しています。



## 成果の提供

調査研究や教育事業等の成果をまとめた報告書等を発行し、全国の青少年教育関係機関・団体等に配布するとともに、各種青少年教育関係文献・資料等を収集し、閲覧に供するため、青少年教育情報センターを運営しています。また、これらの情報はホームページからも閲覧することができます。

## ●インターネット等による提供

### ①青少年教育情報センター所蔵資料等検索サービス

当機構が発行した調査研究報告書や研究紀要等の全文データ等を含め  
図書・資料をサイト上で閲覧、ダウンロードできます。



### ②YouTube チャンネル

青少年教育研究センターが実施したオンラインイベントのアーカイブ等



### ③Facebook ページ

最新の調査結果や青少年教育研究センター関連のイベント情報等

